

毎週日曜発行
2023 10/8

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうのテーマ

1.5℃
の約束



地球のためにできること

キリバス 水没の危機

世界で考え、地域で活動を



キリバスは33の小さな島からなり、青い海と空、

国連広報センターは現在、河北新報社を含む全国の新聞社、テレビ局など155社と気候変動に関するキャンペーン「1.5℃の約束」をすすめるため、「気候変動に具体的な対策を」は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の17項目の一つ。太平洋の真ん中にある島国キリバスの現状を基に、仙台市出身で日本キリバス協会(仙台市)代表理事のケンタロ・オノさん(46)と、気候変動対策を考えてみよう。



水没の危機(きき)に直面しているキリバス。ケンタロさん(右)の知人の家は、ここ数年の間に海岸浸食(しんしょく)などで壊(こわ)れた。2022年11月

白い砂浜(すなはま)がきれいな国です。人口は約13万人。人々はのんびりしていて内気(うちき)だけど、歌(うた)と踊(おど)り、お客(きやく)さんを大切にします。首都(しよと)タラワがある島は、幅(はば)350メートル、海拔(かいばう)2メートル前後(ごう)です。地球温暖化(ちきうわんだんか)による海面(かいめん)上昇(じやうじやう)で、2050年には水没(すいぼつ)する恐れがあるとされています。「水(みづ)と食料(じきりょう)にも気候変動(きこうへんどう)の影響(えいぎやう)が出ていて、人が住(す)めなくなる可能性(かのうせい)がある」とケンタロさんは言(い)います。飲み水(のみみづ)は雨水(あまづみ)ですが、地下水(かみづ)を使(つか)っていませんが、長期間(ながきかん)全く雨(あめ)が降(ふ)らなかつたり、逆に大雨(おほいあめ)で海(うみ)が荒(あ)れて雨水(あまづみ)、地下水(かみづ)に混(ま)ざつたりして確保(かくほ)が難(むづか)しくなりました。国民(こくみん)は、世界(せかい)で3番目(ばんめ)に魚(いし)をたくさん食(た)べると

言(い)われています。しかし、海水温(かいすいおん)の上昇(じやうじやう)と温室効果(か)ガスの影響(えいぎやう)による海の酸性(さんせい)濃度(のうど)の上昇(じやうじやう)でサンゴ礁(さんごしょう)が死(し)んだり、生態系(せいたいけい)が変(か)わつたりして魚(いし)が捕(と)れなくなつてきました。気候変動(きこうへんどう)は、キリバスだけの問題(もんだい)ではありません。今年の夏(なつ)、東北(とうほく)は記録的(きこくてき)な猛暑(もうしょ)でした。「太陽(たいやう)も海(うみ)も一つで、皆(みな)さんの生活(せいかつ)は世界(せかい)とつながつている。グローバル(せかいぎきょう)規模(きぼ)で考え(かんが)え、ローカル(ちいき)で活動(かっどう)してほしい」とケンタロさん。「キリバスでも日本(にっぽん)でも希望(きぼう)を持(も)っている」とみんなに期待(きたい)しています。世界の平均(へいきん)気温(きん)は産業革命(さんぎんかくめい)前から約1.1度(ど)上昇(じやうじやう)しています。気温(きん)上昇(じやうじやう)を1.5度(ど)に抑(おさ)えるには、世界(せかい)の人々(ひと)が協力(きやうりき)して二酸化炭素(にさんかたんそ)をはじめとする温室効果(か)ガスを大幅(たふく)に減(へ)らさないといけません。みんなが何(なに)ができるか考え(かんが)え、行動(こうどう)しよう。

今週の注目ニュース

◇8日(日) はらこめしの日
宮城県亘理町(みやぎけんむらつち)が、荒浜(あらい)地域(ちいき)発祥(はつしやう)の郷土料理(きやうど)はらこめしのPR(ぴあ)を目的(もく)的に定め(さだ)めました。イクラとサケたっぷりの秋(あき)の味覚(あじ)は、仙台藩祖(せんだいはんそ)伊達政宗(いたてまさむね)が運河(うんが)工事(こうじ)の視察(しきさつ)に來(き)た際(さい)、地元(じよん)漁師(りしよ)が献(けん)上(じやう)したのが始まり(はじまり)とされます。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校(がっこう)わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学(まな)べる! こども英語
- 7面 投稿(とうこう)特集
- 8面 子育て・教育(きよく)相談(さうだん)コーナー

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ